

### 1. 注意事項

この取扱説明書は、CROSS SECTION POWER POLE エクスターナル (外装式) ドロッパー・シートポストと1Xドロッパー・レバー用です。

#### ⚠【警告】

フレームに穴を開けたり等改造した場合、保証が受けられなくなると同時にフレームが破損し、重大事故に繋がる恐れがありますので絶対に行わないでください。

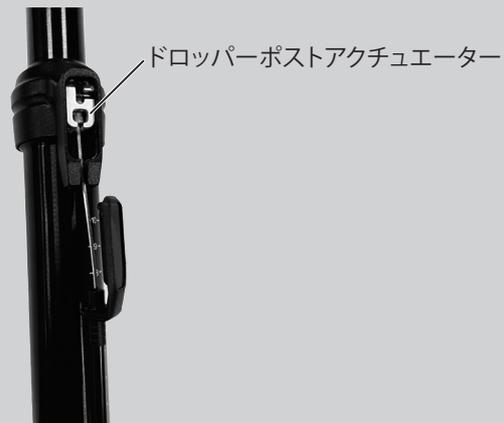
### 2. ドロッパーポスト本体の取付け

- ① ハウジングを1Xレバーを起点にフレームに沿わせ、ドロッパーシートポストの外部アクチュエーターまで配線し車体に合った適切な長さでカットします。  
※軽いレバー操作のため、ハウジングの曲がり小さくなるルートを選択してください。

- ② 外部アクチュエーターのキャップを、ケーブルが入る下部から外します。写真のようにハウジング、ハウジングエンドキャップ、インナーケーブルのタイコ、インナーシフターケーブルを組み立てます。



- ③ インナーケーブルのタイコをドロッパーポストアクチュエーターに挿入します。アクチュエーターロッドを引き、ケーブルをアクチュエーターカバーとポストのスロットから挿入します。



- ④ ケーブルハウジングをアクチュエーターのハウジングストップの底にセットし、アクチュエーターキャップを元に戻します。

- ⑤ サドルをヤグラに取付け、5mm六角レンチ (8 ~ 10Nm) で締めます。シートチューブにドロッパーポストを挿入します。ドロッパーポストの位置を調整し、シートクランプをメーカー推奨トルクで締めます。  
※シートクランプの締め過ぎに注意してください。ドロッパーポストが損傷する恐れがあります。

### 3. 1Xレバーの取付け

- ① 1Xレバーをハンドルバー左側に3mm六角レンチを使用し仮止めします。  
※ケーブル固定部が見えるよう上向きに取付けると作業がしやすくなります。  
※1Xレバーはワイヤーケーブル取付け完了後に下向きに変更します。



- ② 1Xレバー下部にあるケーブル固定ボルトを3mm六角レンチを使用し緩めます。ケーブル固定ボルトとワッシャーの下にワイヤーケーブルを通し仮止めします。  
※ハウジングがバレルアジャスター内に完全に収まるように注意してください。



- ③ 1Xレバーの遊びが無いようワイヤーケーブルをしっかりと引き、ケーブル固定ボルトを3mm六角レンチで(最大2Nm) 締めます。

- ④ レバーを5 ~ 10回押し、ケーブルハウジングが完全に収まっているか、ワイヤーケーブルに遊びがないかチェックします。

△【注意】  
1Xレバー／ケーブルに遊びがある場合は、ケーブル固定ボルトを緩め、もう一度ワイヤーケーブルを強く引きます。

※微小な調整にはバレルアジャスターを使用してください。

- ⑤ ワイヤーエンドを取付けるのに十分なスペース(約10mm)を残し、余分なワイヤーケーブルを切断後、ワイヤーエンドを所定の位置に圧着します。  
※適切なワイヤーカッターを使用することで、ワイヤーケーブルのほつれを防ぐことができます。



- ⑥ 1Xレバーを使用しやすい角度に調整し、レバークランプのボルトを3mm六角レンチで(最大4Nm)本締めします。

### 4. メンテナンス

- ・定期的なメンテナンスにより、長期的に故障のない性能を維持することができます。
- ・走行前と走行後は、ポストの摺動部分を布で拭いて清掃してください。
- ・ポストを洗浄する際、高圧洗浄機を使用しないでください。
- ・泥や水を避けてください。長期間保管する場合は、ポストを伸ばした状態で保管してください。
- ・シートポストを分解・加工しないでください。
- ・ドロPPERシートポストを取付ける際は、必ずフレームメーカーが推奨する指定トルクに従ってください。
- ・取付けは専門の自転車整備店にて取付けを行ってください。誤った取付けにより故障や重大な事故につながる場合があります。

### 5. 保証

- ・このシートポストは、製造日から2年間、製造上の欠陥に対して保証されます。
- ・保証は、DIRTFREAKの指定する部品の修理または交換に限定されます。
- ・保証は最初の所有者にのみ適用され、譲渡はできません。
- ・保証を受けるには、購入証明書が必要です。
- ・保証は、ドロPPERシートポストの通常の磨耗や損傷、日常的なメンテナンス、不適切な取付け、不適切な操作による故障には適用されません。
- ・不適切な加工や改造が見られた場合、保証は無効となります。
- ・DIRTFREAKは、本保証でカバーされない付随的または個人的な費用については責任を負いません。
- ・ドロPPERシートポストを改造したり、誤った方法で使用した場合、シートポストやその他の損害も含め、人身事故や物的損害のリスクはユーザーが負うものとします。